

平成 19 年度 第 2 回富山県環境審議会大気騒音振動専門部会 議事録

1 日時

平成 20 年 1 月 30 日 (水) 10:00 ~ 12:00

2 場所

富山県民会館 702 号会議室

3 出席者

委員 : 長谷川専門部会長、平沢特別委員、川上専門員、小泉専門員、丁子専門員、
成瀬専門員、原専門員

事務局: 堀生活環境文化部次長、岩田環境保全課長 他

4 議事

(1) 大気環境新モニタリング体制の構築について

資料 1、資料 2 及び資料 3 に基づき事務局が、第 1 回大気騒音振動専門部会における委員の指摘事項に対する対応、大気環境新モニタリング体制構築調査報告書及び大気環境新モニタリング体制の構築について(報告書(案))を説明し、質疑が行われた。

(2) 今後の予定

委員からの意見を踏まえて調査報告書及び専門部会報告書案を修正し、最終報告書とすることとなり、そのとりまとめについては、部会長に一任することになった。

5 主な意見・質疑等

(1) 大気環境新モニタリング体制の構築について

[資料 1, 資料 2 - 1, 資料 2 - 2 についての質疑応答]

【委員】クラスター分析というのは各測定局の内部相関を基本としている。ということは変化の度合いの類似性をみている。絶対値の近似性を表現しているものではないと思われるが、そういうもので地域代表性を考察して良いものか?何か不都合はなかったか?

【事務局】傾き(絶対値の大きさ)を考慮しているわけではないが、クラスター分析をかける前に全てのデータではなく、高濃度の時間値を抽出して、ある程度絞ったサンプルからクラスター分析を行っている。そういう面では濃度レベルとしてはほぼ揃っているという判断ができる。

【委員】ということは、統廃合を視野に入れるときには、クラスターで分類し、かつ、その地域の中で低いデータ(局)を捨てていこうというもう一つの条件がつき、高い地域のデータ(局)は残して、それより若干低めのデータ(局)を統廃合の対象としようという発想と考えると良いか。

【事務局】そのとおりである。クラスター分析の中では濃度レベルの比較はないが、他の条件として、同一クラスターの中で濃度レベルの低いところは削減しても良いという検討を行っている。

【委員】化学物質の下付き文字をきちんと揃えること。

【事務局】もう一度確認して修正する。

【委員】資料 2-2 の 154 ページで、表がわかりにくい。「から漏洩した」があると良い。

「高さ」といって単位が書いていない。

【事務局】ご指摘のとおり、表内の説明を追加・修正し、単位(m)も追加する。

【委員】(資料2-1の19ページ)文中に「検討の必要性がある」という表現が多数出てくるが、「何の」検討なのかが入っていない。どういうことなのか?文面から不明瞭である。例えば、「測定の在り方の検討の必要性がある」とか。一番最初の1箇所に書いておけばくどくならない。まるっきり書かないとあまりにも曖昧である。

【委員】文章の流れをみれば、何の検討の必要性があるかは推定できるが、日本語としてさらに正確にするには、しかるべき「何の」を入れた方がよい。

表の下の所では、説明では「廃止を検討」とあるが、文章の中でどういう言葉が良いか?

【事務局】表4.2-1の注にあるとおり、はっきりと「廃止について検討の必要性がある」と記載したい。

【委員】私もその方が良いと思う。文章中にいくつも同じ箇所があらわれるが、それについてどうするか?

【事務局】同様に修正する。

【委員】廃止を検討する最大理由は予算的なものか?

【事務局】1回目に説明したが、常時観測局は、一番古いものは昭和45,6年頃から設置しており、これまで、配置換えしたり、測定項目を変えたり、あるいは、自動車排ガスの問題から自排局を増設したりして観測してきた。最近の状況では、二酸化硫黄など、ここ10年間ずっと環境基準を維持しており、横這い若しくは減少傾向で推移しているものや、一酸化炭素など基準10ppmに対して、1/10程度で推移しているものもある。そのような観測局の項目については、2局の距離が近く、データの変動が類似していれば一つ廃止しても十分評価ができる。そのほか化学物質対策やコンビナート等の災害時の対応も想定し、非メタン炭化水素を6機増やしたり、メリハリをつけるということもある。それから委員ご指摘のとおり維持管理費の問題もある。何年も環境基準を十分下回って推移しているものを、全局で測定し続ける必要があるのかという議論もある。それでクラスター分析等によって、高濃度出現時に地域代表性の観点から、統合できるものは統合するという考え方で検討していただいている。当然、環境基準は監視していかなければいけないが、それを効果的・効率的に実施できるようにするのが目的である。

【委員】何故そんなことを聞いたのかというと、クラスター分析というのはきりがなく、最終的には1局で良くなる。富山県で、ある基準があって、その中で少しずつ減らすなり、増やすなりという発想がどこかに書いてあるならば良いが。

【事務局】基本的には、国の方から処理基準というのが出ていて、可住地面積あたりの局数や、人口あたりの局数という大雑把な設置の指針は出ているが、実態は各県でまちまちである。これまでの集約化の検討において、ある局について、仮にクラスター分析で他の局で代替できる場合であっても、例えば工場増設の予定があったり、工場の集積地であったり、あるいは、道路等の増設の計画があったりした場合等を勘案し、将来を考えると存続すべきというケースもある。

【委員】本編と概要版で目次が随分違う。本編に書かれていない大気環境の現況という項目がある。さらに、概要版の目次で5.2.1があるのに5.2.2がないなど違和感がある。何か意図があってやっているのか?

【委員】本編と概要版の目次を見てみたいと思う。本編と概要版の内容と項目をそれぞれ合わせる必要はないと思うが、本編に出てないものが概要に出てくるのは良くない。

【事務局】大きな意図はない。本編と概要版を併せて整理し、概要版を本編に合わせる形で修正する。

【委員】その形が良いと思う。事務局の方で見直していただきたい。

【委員】概要版の29ページ、将来監視体制の所、一番右端NMHCについて、がついてい
るものが、コンビナートのモニタリング体制の結果を受けてのものか。

【事務局】非メタン炭化水素の追加については、PRTR情報による化学物質のモニタリング
体制の検討から6局追加するという結果となっていて、コンビナートの検討についてもそ
れと整合はしている。

【委員】例えば、概要版25ページ表6.3-1のモニタリング体制で、富山地区が富山岩瀬又は
芝園となっているが、29ページの表では富山岩瀬にがついていて、芝園にはついてな
い。

【事務局】基本的に非メタン炭化水素計の追加については、22ページのVOCモニタリング
体制の検討により決めており、6局を新設することで、29ページの表に記載している。
コンビナート災害時等対応のモニタリング体制の検討結果については、それと矛盾がないと
いう意味で、検討した全てのモニタリング地点に新設するわけではない。

【委員】せっかくコンビナートの検討をしたのだから、VOCモニタリング体制との整合につ
いても説明があった方がわかりやすいと思う。

【事務局】委員ご指摘のとおり、説明を追加する。

【委員】概要版25ページ、表6.2-1で富山岩瀬が近傍観測局と書いてあり、表6.3-1では、
富山地区として富山岩瀬又は富山芝園と記載されている。ここで富山芝園が出てきた理由
は何か？

【事務局】本編155ページの方で、自動測定機による連続測定を行っている項目以外に、有
害大気汚染物質のモニタリングということで、年に4～12回調査をしている。通常の状
態と異常があった時の比較することも想定し、有害大気汚染物質モニタリング地点である
富山芝園局も補完的な地点としてより総合的な監視体制という意味で追加した。

【委員】（コンビナート地点から）距離は結構離れているようだが、補完的な地点というこ
とで理解した。概要版では唐突に出てくるので、わかりにくい。6.3.のどこか説明を追加し
てほしい。

【委員】富山岩瀬又は富山芝園という「又は」は、どちらか一つという意味で、補完的意味
だと「又は」という言葉は適切ではないと思う。この芝園というのは、本編の155ペ
ージにあるように、有害大気汚染物質の観測地点である。

【事務局】表6.3-1の所は富山岩瀬だけにして、表の下に有害大気汚染物質の調査を行っ
ている富山芝園も補完的な地点である旨の説明を追加する。

[資料3についての質疑応答]

【委員】14ページの「6観測局の適正配置計画の策定」の「効果的、効率的な」という言
葉があるが、決まり文句のようで、効果的とは何を言っているのか、効率的というのは何
を言っているのか。効率的というのは減らす方向にあり、増やせば増やすほどある種効果
的となる。イメージが相反するものがセットになっていることに疑問を感じた。

【事務局】資料3の8ページにあるが、新モニタリング体制構築に向けた基本的な考え方
において、例えば、では一般環境観測局の配置の検討について、個々の観測局が県内全域
の汚染状況をできるだけ正しく、かつ、個々の観測局ができるだけ広い領域を代表するよ
うに観測局を配置することが効果的、効率的としている。委員ご指摘のとおり、観測局を
統合して何が効果的かともいえるが、この「効果的」の意味には、費用対効果も含まれて
おり、統合すれば効率的になるが、最小限の費用で最大の効果を産みたいという考え方が
含まれている。

【委員】適正配置という中に現状における効果性を低下させずに、効率化させるという意味
があるならば理解できる。

【事務局】何が効果的で、何が効率的か補足する方向で修正する。

【委員】報告書の全体の項目と流れについてはどうか？
構成についてはこれで良いと思う。（意見なし）

【委員】4 ページで 二酸化硫黄と 二酸化窒素があるが、二酸化硫黄のデータは 2%除外値、二酸化窒素の方は 98%値。二酸化硫黄の方は 1 日平均値の年間 2%除外値、かっこして、2%範囲内のものを除外した値とあるが値とは平均値か？

【事務局】1 年間の 1 日平均値として最大 365 個のデータが出てくるが、それを高い方から並べて 2%分、通常 7 個程度を除いた一番高い値である。

【委員】2%除外値と 98%値は、計算方法は同じ事を言っているのか？基本的には同じだと思うが、作られている歴史が違うから、同様の視点であるが、表と裏から見ているようなものか。

【事務局】結果的にほぼ同じである。（それぞれ、有効測定日数の 2%、98%の少数第 1 位を四捨五入するため、順位が 1 ずれる場合もある）国の環境基準の評価法として、二酸化硫黄と一酸化炭素については 2%除外値で、二酸化窒素については 98%値で評価すると規定されている。

【委員】環境基準の評価で国が定めた言い方を踏襲しているということである。

【委員】大気汚染の状況のグラフで最大値、最小値、平均値の意味がわかりにくい。最大値とは、各観測局の 2%除外値や 98%値を比較し、最も高い観測局の値ということか？

【事務局】そうである。

【委員】文章を読んでいくと「各観測局の・・・範囲にある」と書いてあり、なんとなく意味はわかるが、直感的に理解できる表現があると良い。

【事務局】グラフの凡例またはキャプションに最大値、最小値、平均値の意味がわかるような説明を追加する。

【委員】答申というのはホームページ上に掲載され、一般の人たちもそれを読むことになるので、できるだけ見て、理解できる、解りやすい、そういう書き方が大事だと思う。今の委員のご指摘については、事務局の方で、どう書けば解りやすいかという視点で、検討していただきたい。

【委員】この報告書の中に書かれている語句や廃止・継続の結論と、調査報告書にかかっている語句、検討結果表とが完全に整合しているか、念のため再確認をしていただきたい。

【委員】光化学オキシダントの注意報の発令や今後の集約化の関連で、報告書案を審議会に報告した時に、専門以外の人から見ると、集約化の記述 10~11 ページの説明だけで、納得してもらえるようなものなのか心配である。他のものは大部分基準をクリアしているので問題ないが、オキシダントについて、もう少し丁寧に書いた方が良いような気がする。要するに、環境基準をオーバーしているのに、6 つも集約化するのかという点で審議会の時に十分説明できる記述かどうかというのが心配である。

【事務局】ご指摘のとおり、理解を得られるような説明の追加を検討する。

【委員】具体的には、11 ページの 3 行目の右側の「高濃度日における」という書き出しから始まって、次の段落の集約化することとするという所にかけてもう少し丁寧な説明を加えるということになる。数行というか 5 行くらい。

【事務局】検討する。

【委員】7の最後の「留意事項」というタイトルに違和感がある。1が「はじめに」なので、7が「おわりに」でよいのではないか。

【事務局】委員ご指摘のとおり、「まとめ」や「おわりに」などの文言に修正する。

(2) 今後の予定について

委員からの意見を踏まえて調査報告書及び専門部会報告書案を修正し、最終報告書とすることとし、専門部会は第2回で終了することになった。また、報告書のとりまとめについては、部会長に一任することで委員の了解が得られた。